

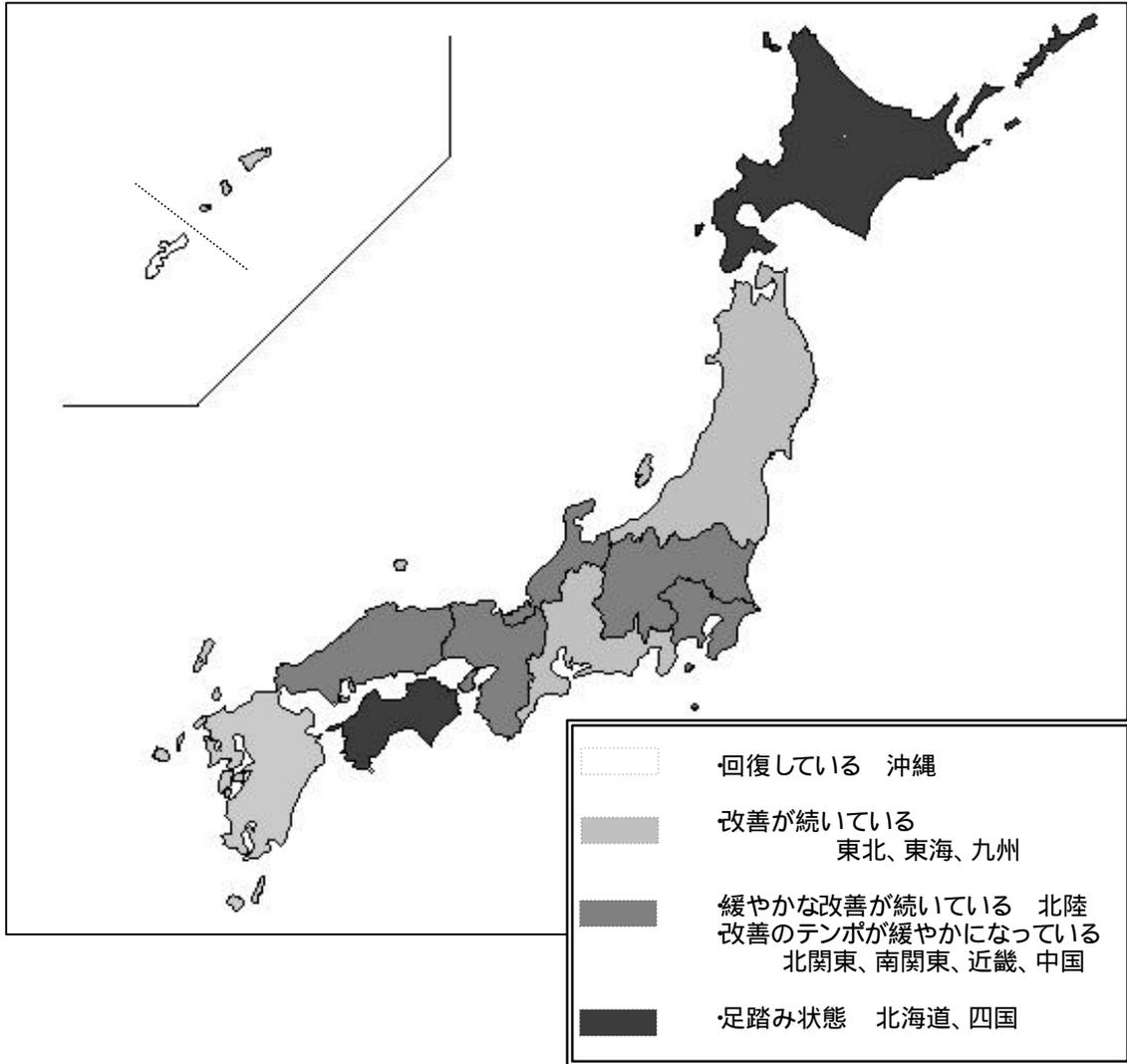
# 地域経済動向

平成 13 年 2 月 20 日

内閣府政策統括官  
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

# 1. 地域経済の概況

## (1) 各地域の景況感



## (2) 前回調査からの比較

### 総括表現

各地域の表現	北海道	東北	関東 (北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回復している											
改善が続いている											
緩やかな改善が続いている											
改善のテンポが緩やかになっている											
足踏み状態											

(備考) は、今回調査の判断。  
 は、前回調査の判断。 のない地域は、前回の判断を変更していない地域。

## ～ 前回調査からの比較 ～

最近の地域経済動向は、これまで景気改善をけん引していた地域にも減速感がみられ始めていることから、全体としてみれば「改善のテンポがより緩やかになっている」と言える。

上方修正・・・なし

下方修正・・・4地域（中国、北関東、南関東、近畿）

## 今回調査の特色

### **改善が続いている東北、東海、九州、回復している沖縄**

東北：個人消費はやや弱含んでいるものの、鉱工業生産は引き続き増加し、雇用情勢も厳しい状況ながらやや改善している。なお、鉱工業生産は電気機械を中心に高操業が続いているものの、輸出減少の影響がみられつつある。

東海：個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が増加している。なお、10～12月の乗用車新規登録・届出台数は東海豪雨後の買い替え需要もあって、前年を大幅に上回っている。

九州：雇用情勢は厳しい状況にあり、個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が引き続き増加傾向にある。

沖縄：個人消費はおおむね横ばいであるものの、主力の観光が高水準で推移し、住宅建設も増加傾向にある。

### **緩やかな改善が続いている北陸、**

#### **改善のテンポが緩やかになっている北関東、南関東、近畿、中国**

北陸：個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、鉱工業生産の増加のテンポが緩やかであるものの、設備投資が製造業を中心に一段と増加している。

関東（北関東、南関東）：個人消費はおおむね横ばい状態であり、鉱工業生産は緩やかに増加しているものの直近では輸出の減速等により増勢が鈍化している。なお、外資系大規模ショッピングセンター等の出店が相次ぎ、競争が激化している。

近畿：個人消費がやや弱含んでおり、鉱工業生産もこのところ足踏み状態となっている。なお、大型テーマパークが開園することから、観光面を中心に地域経済への活性化が期待されている。

中国：個人消費はやや弱含んでおり、鉱工業生産の増加のテンポが緩やかになっている。なお、大型百貨店の閉店や大手自動車メーカーの工場閉鎖発表など地域への影響が懸念される一方で、半導体事業への大型投資は相次いでいる。

### **足踏み状態にある北海道、四国**

北海道：鉱工業生産が足踏み状態であり、個人消費がやや弱含んでおり、公共投資が前年を下回っている。

四国：鉱工業生産が足踏み状態であり、個人消費はやや弱含んでおり、雇用情勢も厳しい状況にある。なお、1月には香川県的大型百貨店が民事再生法の適用申請に至っており、今後の地域経済への影響を注視する必要がある。

鉱工業生産（沖縄は観光）

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
高水準で推移												
増加												
増加傾向												
緩やかに増加												
増加のテンポが緩やか												
足踏み状態												

個人消費

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
堅調												
おおむね横ばい												
やや弱含んでいる												
弱含んでいる												

設備投資

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
12年度計画は前年度実績を上回っている				-	-							
12年度計画は前年度実績を下回っている				-	-							

住宅建設

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
増加												
増加傾向												
横ばい												
緩やかに減少												
減少												

公共投資

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年を上回っている												
おおむね前年並み												
前年を下回っている												

雇用情勢

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
厳しい状況ながらやや改善												
有効求人倍率は上昇しているが、厳しい状況												
厳しい状況												

## 2. 地域経済の動向

### (1) 北海道

北海道地域では、企業部門を中心に自立的回復に向けた動きがみられるものの、景気は足踏み状態である。これは、設備投資が製造業を中心に増加しているものの、鉱工業生産が足踏み状態にあり、個人消費がやや弱含んでおり、公共投資が前年を下回っているからである。

～ I T 基盤が整備され、人材も豊富であり、またコストの面からみても有利な札幌に、コールセンターが相次いで開設されている～

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 第一次産業 「減少」

- ・生乳生産（前年同月比）は、11月0.2%減、12月0.9%減となった。水産業（主要10港、前年同月比）は、さけ、たらが不漁であったことなどから、12月は水揚量では20.8%減となり、金額でも5.9%減となった。

##### (2) 鉱工業生産 「足踏み状態」

（季節調整値、前期（月）比増減率、単位：％）

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	1.2	0.4	0.7	1.4	0.4	0.7	1.5

（備考）(P)は速報値。

#### <コメント>

- ・食料品・たばこは、冷凍水産物、塩蔵品の減少から前年を下回っている。窯業・土石は、公共工事の減少等から低調に推移している。パルプ・紙は、年末、年始の需要もあり、新聞広告やチラシ、パンフレットなどが増加していることなどから堅調に推移している。
- ・電気機械は、高水準な生産が続いているものの、需要が弱含んでいることなどから、このところ減少している。輸送機械は国内、国外からの需要が好調なことから高水準フル生産で推移している。

##### (3) 観光 「持ち直しの兆し」

- ・来道客数（前年同月比）は、11月1.7%減の後、前年のY2K問題の反動要因もあるが、12月7.7%増となり持ち直しの兆しがみられる。

##### (4) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が横ばい」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

（「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：％ポイント）

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	26	28	28	29
製造業	18	16	13	17
非製造業	29	32	34	33

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- ・リース案件が低調である（その他サービス業 [建設機械リース]）、設備投資動向が低水準である（金融業）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、荷動きに盛り上がりがない（輸送業）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

#### 大型小売店販売額

(店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
大型小売店	4.9	5.7	5.6	4.2	4.9	4.4	3.4
百貨店	2.9	5.6	4.1	2.1	4.2	3.2	0.1
スーパー	6.5	5.8	6.7	5.7	5.4	5.4	6.2
コンビニエンス・ストア	2.8	3.3	3.8	3.0	3.0	3.3	2.6

#### <コメント>

百貨店：10月、11月はプロ野球優勝セールなどにより一部で動きがあった。12月は札幌そごうの閉店セールや気温の低下により冬物が好調な動きとなったことなどから、32か月振りに前年を上回った。  
スーパー：主力の飲食料品は市況安などから前年を下回っており、衣料品も低価格化から低調である。大型スーパーの開店が続いており、競争が激化している。

#### 乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	0.1	2.3	1.8	0.2	0.3	1.2	1.7

#### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	43.3	42.5	42.6	45.5	48.5	42.9
先行き判断	44.4	45.4	41.8	46.7	43.6	47.3

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照こと。

#### <現状判断理由>

- 客単価が低下したままである(商店街、スーパー、コンビニ等) 売上に変化がない(家電量販店、自動車備品販売店、観光型ホテル等)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している(衣料品専門店、高級レストラン、スナック等)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### (2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資] (12月調査)

(前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	15.7	14.7(4.8)
製造業	35.7	28.0(4.8)
非製造業	0.8	9.1(4.8)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

### (3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	8.4	2.6	1.9	8.3	5.4	16.5	1.8

#### <コメント>

- 持家、分譲などが減少していることから、全体でも減少している。

### (4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	14.8	10.0	10.2	3.5	8.9	7.1	5.1

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが、厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.45	0.43	0.52	0.54	0.53	0.54	0.55
完全失業率(原数値)	6.5	5.8	4.7	5.2	-	-	-

#### <コメント>

- ・有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期(5.3%)を下回っているものの依然として高い水準にある。

景気ウォッチャー調査 [雇用関連]

#### <現状判断理由>

- ・正社員の新規採用に積極性がない(新聞社[求人広告])、パートや派遣社員が中心である(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、機械器具製造業の求人に一服感がある(職業安定所)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数は減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	35.9	21.6	31.9	12.6	7.2	34.6	6.8
負債総額	76.0	23.6	55.9	22.7	45.5	35.6	16.6

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	45.5	46.2	46.1	48.3	48.5	41.9
先行き判断	47.2	49.0	44.1	46.5	42.9	47.1

## (2) 東北

東北地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は改善が続いている。これは、個人消費はやや弱含んでいるものの、鉱工業生産は引き続き増加し、設備投資も製造業を中心に増加しており、また、雇用情勢も厳しい状況ながらやや改善しているからである。

～鉱工業生産は電気機械を中心に高操業が続いているものの、輸出減少の影響がみられつつある～

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産 「増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	4.6	1.8	4.4	2.4	2.7	1.4	2.7

(備考)(P)は速報値。

<コメント>

- ・全体の生産水準は12月は前月比で3か月ぶりにやや減少したものの、前年同期比では22か月連続の上昇となっている。パソコンや携帯電話等が生産水準を下けているが、電子デバイスやファインセラミックスは、一部輸出減少の影響を受けているものの、これまで需給が逼迫していた国内へ振り向けるなど対応し、高操業が続いている。今後の国内市場については様子見の状況である。

(2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が拡大」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	23	17	18	19
製造業	12	1	3	5
非製造業	29	31	29	28

(備考)電力を除く。

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

- ・状況に変化がない(食料品製造業、建設業等)物流が一進一退である(輸送業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、値引き要求が厳しい(繊維工業、電気機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

(1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

大型小売店販売額 (店舗調整値、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
大型小売店	3.8	4.9	5.5	3.6	1.7	3.6	4.9
百貨店	2.8	3.2	2.8	1.4	2.0	1.9	3.6
スーパー	4.3	5.8	6.8	4.7	3.6	4.5	5.7
コンビニエンス・ストア	0.9	2.1	2.4	2.5	3.3	1.9	2.1

<コメント>

百貨店：10月に29か月ぶりにプラスとなるなど、テナント導入による紳士服の好調もあって若干明るい兆しがみられつつある。しかし、年末年始は天候不順の影響により苦戦を強いられるなど予断を許さない状況である。

スーパー：新規出店の効果により、10～12月は全店舗では4四半期ぶりに上昇に転じた。一方で、気候の影響は小さいものの既存店ベースではマイナス幅が拡大している。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期比(月)増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	1.8	4.2	0.1	2.4	3.8	0.3	3.1

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	44.9	45.1	44.9	40.6	41.0	35.0
先行き判断	47.4	49.6	51.0	45.6	43.4	45.3

(備考)巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・客単価は低迷している（百貨店、スーパー、観光名所等）客が低価格志向である（百貨店、スーパー、通信会社等）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、雪の影響がある（百貨店、遊園地、美容室等）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	4.5	9.7 ( 3.1 )
製造業	9.2	23.5 ( 3.6 )
非製造業	0.8	7.7 ( 2.2 )

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

<コメント>

- ・非製造業は、通信を中心に若干の上方修正がみられたものの引き続き前年度実績を下回っているが、製造業は、電気機械が一段の能力増強投資を行うなど11年度に引き続き増加しており、全産業では前年度を上回っている。

(3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	2.6	10.8	1.8	0.5	6.6	12.7	3.6

<コメント>

- ・ウェイトの高い持家、貸家でこのところ前年を上回っているが、全体の基調は変わらない。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	14.8	21.5	11.9	10.7	14.9	0.5	29.5

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.55	0.59	0.61	0.62	0.62	0.62	0.63
完全失業率(原数値)	5.0	4.2	4.2	4.2	-	-	-

<コメント>

- ・完全失業率は、前年同期(4.1%)を上回っており依然としてやや高い水準にある。有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・新規求人数が増加傾向だが一般求人は増えない(職業安定所)、有効求人倍率が低い(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客が求人に慎重になっている(人材派遣会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	50.0	16.7	33.7	11.4	27.6	12.5	6.6
負債総額	50.5	8.3	49.9	0.1	55.8	96.7	281.2

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	48.1	48.2	47.8	43.3	41.8	36.9
先行き判断	49.7	52.9	51.4	46.6	42.4	44.9

### (3) 関東

関東地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが続いているものの、景気は改善のテンポが緩やかになっている。

これは、雇用情勢は厳しい状況ながらもやや改善している一方で、個人消費はおおむね横ばい状態であり、鉱工業生産は緩やかに増加しているものの直近では輸出の減速等により増勢が鈍化しているからである。

北関東と南関東については、新設住宅着工戸数で異なった動きがみられるものの、総じてみればほぼ同様の動きであることから、景気は改善のテンポが緩やかになっている。

～外資系大規模ショッピングセンター等の出店が相次ぎ、競争が激化している～

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産 「増加のテンポが緩やか」

(季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	3.2	0.5	1.8	0.4	0.9	2.2	0.2

(備考)(P)は速報値。

##### <コメント>

- ・電気機械は、パソコン、携帯電話関連を中心に、一般機械でも情報通信機器関連を中心に増加している。
- ・輸送機械は、新型車投入効果等から増加傾向にあるものの、直近では米国経済の影響などにより輸出が鈍化している。
- ・化学は、国内出荷は堅調であるものの、アジア市況の低迷等により輸出が減少している。

##### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

(「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	13	10	8	8
製造業	9	4	2	2
非製造業	17	14	14	13

#### 2. 需要の動向

##### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

大型小売店販売額

(店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
大型小売店	3.1	4.5	5.0	4.3	4.4	3.0	5.1
百貨店	0.5	2.7	2.8	2.2	3.1	1.4	2.2
スーパー	5.6	6.2	7.0	6.3	5.6	4.7	7.9
コンビニエンス・ストア	1.8	1.8	0.4	1.6	2.8	1.4	0.7

##### <コメント>

百貨店：身の回り品が婦人靴、ハンドバッグ等で好調だったことから増加したものの、飲食料品が歳暮ギフトの伸び悩み等により減少した他、主力の衣料品が振るわなかったこと等から全体でも減少している。

スーパー：前年のY2K問題の特需による反動や、衣料品や身の回り品の価格低下等が続いており、25か月連続して前年を下回っている。

乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	1.2	4.3	0.9	5.3	5.0	6.5	4.4

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	45.2	42.7	43.6	41.5	43.8	44.2
先行き判断	50.0	50.8	49.1	46.9	42.7	49.0

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業で前年度実績を上回り、全産業では前年度実績を下回っている」  
 企業短期経済観測調査 [設備投資] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度(計画)
全産業	7.3	4.6 ( 1.6)
製造業	21.3	15.7 ( 2.2)
非製造業	5.5	6.9 ( 2.1)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「増加傾向」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	11.4	6.5	0.0	7.2	1.6	3.1	17.6

<コメント>

- ・持家、貸家が一進一退の動きとなっているものの、首都圏の堅調なマンション着工に支えられ分譲は増加しており、全体でも増加している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	8.0	12.1	15.5	9.1	1.4	3.7	23.6

### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.53	0.59	0.65	0.70	0.69	0.70	0.72
完全失業率(原数値)	4.8	4.8	4.6	4.2	-	-	-

<コメント>

- ・有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇しており、完全失業率は前年同期(4.4%)を下回っている。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	42.0	13.4	15.2	12.4	11.6	11.8	1.4
負債総額	61.1	6.8	162.5	1202.0	366.7	100.1	16.8

<コメント>

- ・販売(卸売・小売)業、建設業の倒産が相次いでいる。

### 景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	47.1	47.3	47.9	44.5	44.7	43.8
先行き判断	53.7	54.6	50.3	47.8	44.0	48.5

## 北 関 東

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産 「増加のテンポが緩やか」

- ・電気機械や一般機械は堅調に推移しており、輸送機械は増加傾向にあるものの直近では輸出の減速により増勢が鈍化している。

#### (2) 企業動向

景気ウォッチャー調査 [ 企業動向関連 ]

##### < 現状判断理由 >

- ・仕事はあるが、従来品の受注は減っている(一般機械器具製造業) 融資の一部繰上げ返済の相談が多い(金融業) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、在庫調整の影響で受注が無い(電気機械器具製造業) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

大型小売店販売額

(店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12(P)	12年10月	11	12(P)
大型小売店	4.3	5.0	4.8	3.7	4.5	2.6	4.0
百貨店	1.9	3.4	3.6	2.3	2.9	0.7	2.9
スーパー	5.5	5.8	5.3	4.5	5.3	3.6	4.6

乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	1.9	4.3	1.8	4.3	3.5	3.0	6.4

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	44.2	43.6	42.5	43.1
先行き判断	-	-	48.6	46.8	43.4	51.0

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

##### < 現状判断理由 >

- ・新製品がなかなか売れない(コンビニ、乗用車販売店) 購買意欲が低下している(乗用車販売店) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している(コンビニ、衣料品専門店) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 住宅建設 「緩やかに減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	1.3	12.0	6.1	2.3	5.1	5.4	3.4

##### < コメント >

- ・持家に持ち直しの動きがみられるものの、貸家、分譲が減少傾向にあることから全体では緩やかに減少している。

#### (3) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	10.9	11.1	19.1	14.7	6.3	2.2	4.7

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

##### 有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.76	0.84	0.89	0.95	0.92	0.95	0.97
完全失業率(原数値)	4.0	3.7	3.5	3.8	-	-	-

##### <コメント>

- ・有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇しており、完全失業率は前年同期(3.8%)と同水準となっている。

##### 景気ウォッチャー調査 [雇用関連]

##### <現状判断理由>

- ・派遣需要は堅調(人材派遣会社)、有効求人倍率は改善しつつある(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、有効求職者数に占める雇用保険受給者の割合が高くなっている(職業安定所)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	44.5	24.6	26.8	13.5	12.1	18.6	4.5
負債総額	76.4	2.5	149.7	149.8	11.3	240.0	199.2

##### 景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	47.6	47.0	43.3	43.2
先行き判断	-	-	48.6	47.0	43.0	50.3

## 南 関 東

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産 「増加のテンポが緩やか」

- ・電気機械や一般機械は堅調に推移しており、輸送機械は増加傾向にあるものの直近では輸出の減速により増勢が鈍化している。

#### (2) 企業動向

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

##### <現状判断理由>

- ・良い業種と悪い業種が鮮明になる(不動産業) 売上が減少して悪い状態が変わらない(金融業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客はコストダウンの話でもちきりである(一般機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12(P)	12年10月	11	12(P)
大型小売店	2.8	4.4	5.1	4.3	4.4	3.1	5.1
百貨店	0.3	2.6	2.7	2.2	3.2	1.5	2.1
スーパー	5.6	6.3	7.5	6.6	5.7	5.0	8.5

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	1.0	4.4	0.6	5.7	5.6	7.7	3.7

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	43.2	40.3	44.4	44.8
先行き判断	-	-	49.3	46.9	42.4	48.1

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

##### <現状判断理由>

- ・正月の初売りは好調だったがシーズンを通した売上は変わらない(百貨店、商店街) 来客数が減少している(スーパー、その他専門店[眼鏡])などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が減少している(スーパー、コンビニ、衣料品専門店)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 住宅建設 「増加」

##### (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	13.9	11.6	1.5	8.4	0.8	2.5	23.5

##### <コメント>

- ・持家が一進一退の動きとなっているものの、東京圏の堅調なマンション着工に支えられ分譲が増加していることから全体でも増加している。

#### (3) 公共投資 「前年を下回っている」

##### (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	6.5	12.5	13.8	6.1	5.0	6.8	31.1

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.47	0.53	0.58	0.63	0.62	0.63	0.65
完全失業率(原数値)	5.0	5.2	4.9	4.4	-	-	-

#### <コメント>

- ・有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇しており、完全失業率は前年同期(4.5%)をやや下回っている。

景気ウォッチャー調査 [雇用関連]

#### <現状判断理由>

- ・派遣受注は多い(人材派遣会社) 新規求職者数が漸減している(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、自分の都合に合わせた仕事を選ぶため、就職先が見つからない(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	41.6	11.4	13.2	12.2	17.2	10.6	0.8
負債総額	63.3	7.0	163.1	1295.4	434.0	88.1	33.4

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	48.1	43.3	45.3	44.1
先行き判断	-	-	51.1	48.2	44.5	47.5

## (4) 東 海

東海地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は改善が続いている。これは、個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が増加し、設備投資も非製造業を中心に増加しているからである。

～10～12月の乗用車新規登録・届出台数は東海豪雨後の買い換え需要もあって、前年を大幅に上回っている～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産 「増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	0.6	4.0	1.3	1.8	6.3	1.7	1.8

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- 自動車は欧州向け輸出が弱く動きであるが、国内販売が新型車投入効果により動きがみられることから増加している。電気機械はパソコン用電子部品の米国向け輸出が減少しているものの、重電機、電子計算機・同関連装置が堅調なことから増加している。一般機械は金属工作機械が国内の一般機械関連、自動車関連、海外が米国向け、欧州向けに動きがみられることから、増加傾向にある。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が拡大」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	17	11	13	15
製造業	12	7	9	11
非製造業	25	17	17	22

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 少額でも手形で支払う取引先が増加している(電気機械器具製造業)、荷動きが悪くなっている(輸送業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、仕事が取れない状況は変わらないなどの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
大型小売店	4.2	7.7	5.9	7.7	8.3	6.0	8.4
百貨店	2.2	6.9	6.6	7.2	10.2	5.2	6.4
スーパー	5.4	8.1	5.5	8.0	7.1	6.5	10.0
コンビニエンス・ストア	0.5	0.4	2.2	0.5	0.7	1.2	1.0

#### <コメント>

百貨店：衣料品の不調、昨年3月にオープンした大型店の影響などから低調となっている。1月はクリスマスセールに動きがあったが、大雪による客数の減少もみられた。なお、店舗調整前では10月1.2%減、11月4.8%増、12月1.6%増となっている。

スーパー：低価格傾向による衣料品の不振等が直近も含め続いているものの、新規出店の増加により、店舗調整前では10月1.1%減、11月4.7%増、12月0.4%増となっている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	3.5	3.8	3.5	10.8	18.8	6.5	7.9

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	52.2	48.9	47.1	45.3	43.8	42.0
先行き判断	51.4	52.1	51.0	48.6	43.1	48.1

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照。

<現状判断理由>

- ・低価格志向である（百貨店、スーパー、家電量販店等）、客単価に変化がない（一般小売店〔土産〕パチンコ店）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している（コンビニ、テーマパーク、ゴルフ場）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

（２）設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査〔設備投資〕（12月調査） （前年度比増減率、単位：％）

	11年度実績	12年度計画
全産業	11.9	7.9
製造業	21.7	4.4
非製造業	3.4	10.5

（３）住宅建設 「緩やかに減少」

（前年同期（月）比増減率、単位：％）

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	1.0	2.8	3.6	7.6	2.1	15.6	6.1

<コメント>

- ・緩やかに減少しているものの、持家、分譲の増により、このところ前年を上回っている。

（４）公共投資 「前年を下回っている」

（前年同期（月）比増減率、単位：％）

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	4.3	14.7	11.6	15.1	7.2	9.7	9.6

3. 雇用情勢等

（１）雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

（単位：倍、％）

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
有効求人倍率（季節調整値）	0.68	0.74	0.80	0.87	0.84	0.87	0.89
完全失業率（原数値）	4.0	4.1	3.5	3.6	-	-	-

<コメント>

- ・完全失業率は、前年同期（3.8％）を下回っているが、依然としてやや高い水準となっている。有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査〔雇用関連〕

<現状判断理由>

- ・技術力や営業力の高い社員の求人はあるが、それ以外の募集は低調である（新聞社求人広告、職業安定所、民間職業紹介機関）、求人数は増加しているが、求職者数は高止まりとなっているなどの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、派遣の受注が増加している（人材派遣会社）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

（２）企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

（前年同期（月）比増減率、単位：％）

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	37.4	16.4	14.6	1.9	2.1	0.7	4.9
負債総額	3.1	13.7	49.2	134.2	85.3	347.8	12.9

景気ウォッチャー調査〔合計DI〕

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	55.7	53.1	49.7	47.7	43.9	43.4
先行き判断	55.7	56.3	52.5	49.9	43.7	46.6

## (5) 北 陸

北陸地域では、企業部門を中心に自発的回復に向けた動きが継続しており、景気は緩やかな改善が続いている。これは、個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、鉱工業生産は増加のテンポが緩やかであるものの、設備投資が製造業を中心に一段と増加しているからである。

～大雪により、企業の資材調達、納品等の遅れ、観光客のキャンセル等の被害がみられた～

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産 「増加のテンポが緩やか」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	1.6	3.7	1.9	0.2	1.1	1.0	0.5

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- 電気機械は携帯電話部品が欧州・東アジア輸出向けの大幅な減少から、生産水準を引き下げているものの、情報化関連投資の拡大を背景とした需要の拡大によりサーバーが増産しており、ディスプレイも欧州向け輸出の増加などから生産水準を高めている。一般機械は建設機械が低調であるものの、繊維機械がアジア向け、工作機械が自動車関連を中心とした受注増から、増加傾向にある。
- 繊維は、輸出が減少傾向にあり、衣料が輸入品と競合していることから低水準な生産となっている。金属製品はアルミ建材がビル用建材で動きがみられたが、住宅用建材は生産の抑制基調が続いているため、横ばいとなっている。

(2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	26	24	22	26
製造業	16	17	15	21
非製造業	35	32	29	32

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 取引価格が下落している(電気機械器具製造業) 特定債務猶停事件等が相変わらず多い(司法書士)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、1月の売上がIT関連を中心に2割減少している(通信業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

(1) 個人消費 「おおむね横ばい」

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12(P)
大型小売店	2.1	2.4	3.6	6.8	6.8	5.7	3.9
百貨店	1.9	0.9	3.1	3.1	5.6	3.2	1.4
スーパー	2.2	3.3	4.0	9.4	7.6	7.5	5.9
コンビニエンス・ストア	-	-	-	-	-	-	-

#### <コメント>

- 百貨店：低価格傾向による衣料品の不振は続いているものの、歳暮商戦では法人中心に動きがみられた。また、1月は大雪とクリアランスセールが重なったことから、売上の減少が見込まれている。
- スーパー：客数の減少、衣料品等の不振による客単価の低下が直近も含め続いているものの、新規出店の増加から、店舗調整前は、10月4.0%増、11月6.4%増、12月14.2%増となっている。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	0.5	3.2	3.3	1.4	2.0	1.5	4.3

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	37.7	41.7	46.3	44.0
先行き判断	-	-	44.2	43.1	44.9	50.0

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・来客数が確保できている(スーパー、住宅販売会社)客単価が低下している(一般小売店[果物]、一般レストラン)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している(商店街、百貨店、衣料品専門店等)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査[設備投資](12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	21.4	18.3
製造業	18.5	25.5
非製造業	26.5	3.9

(備考) 電気・ガスを除く。

<コメント>

- ・全産業、製造業は4年振りに非製造業は6年振りに前年度実績を上回っている。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	5.4	4.3	4.1	8.4	23.6	6.1	11.2

<コメント>

- ・緩やかに減少しているものの、持家、貸家の増により、このところ前年を上回る動きもみられる。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	22.5	4.0	20.2	19.4	23.1	12.1	18.4

### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.75	0.77	0.82	0.84	0.84	0.83	0.84
完全失業率(原数値)	4.0	3.6	3.5	3.2	-	-	-

<コメント>

- ・完全失業率は、前年同期(3.2%)と同水準となっているものの、有効求人倍率は緩やかに上昇している。  
景気ウォッチャー調査[雇用関連]

<現状判断理由>

- ・企業からの求人問い合わせがかなり減少している(学校[大学])、雇用保険受給者が増加している(職業安定所)などの理由から、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、アウトソーシング業界の求人ニーズは高いが、全体の求人件数等は横ばい状況である(求人情報誌製作会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	16.3	34.1	42.3	42.3	8.1	11.8	0.0
負債総額	72.5	7.5	62.7	105.0	185.5	49.2	295.6

景気ウォッチャー調査[合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	43.0	44.2	45.9	41.8
先行き判断	-	-	47.3	44.4	45.4	46.7

## (6) 近畿

近畿地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが続いているものの、景気は改善のテンポが緩やかになっている。これは、設備投資が製造業を中心に増加しているものの、個人消費がやや弱含んでおり、鉱工業生産もこのところ足踏み状態となっているためである。

～大型テーマパーク(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)が開園することから、観光面を中心に地域経済への活性化が期待されている。～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産 「足踏み状態」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12月(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	1.6	1.2	0.8	1.2	1.3	1.0	0.1

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- これまでの緩やかな増加傾向から3か月続けて減少しており、このところ足踏み状態となっている。
- 電気機械は、依然として通信・電子部品等で好調に推移している。一般機械は、半導体製造装置や設備投資の持ち直しの動きから工作機械等が堅調となっているものの、土木建設機械は低調である。輸送機械は、自動車関連で新車効果が薄れつつある。また繊維等の地場産業は、需要の低迷や輸入品との競合から不振となっている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	22	19	14	15
製造業	15	12	6	9
非製造業	28	26	22	19

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 価格が低迷している(金属製品製造業、一般機械器具製造業、輸送業)、一部製造業で安定した運転資金需要がある一方、飲食等で返済猶予等の申出がある(金融業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注状況が悪化している(繊維工業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
大型小売店	3.8	5.4	6.2	5.2	4.7	4.6	5.7
百貨店	1.0	1.2	3.1	1.6	2.0	1.5	1.4
スーパー	6.0	8.6	8.7	8.2	6.8	7.2	10.0
コンビニエンス・ストア	3.1	2.5	0.6	1.7	3.4	0.7	1.0

#### <コメント>

百貨店：婦人服、身の回り品が好調だった他、一部店舗の閉店セールによる販売増やアクセサリー等のクリスマス関連商品にも動きがみられた。一方、ギフト関連の前倒しの反動から飲食料品が12月には減少し、紳士服、その他衣料品は引き続き低調であった。

スーパー：前年のY2K問題の反動もあり飲食料品が引き続き不振なことに加え、低価格傾向にある衣料品も低調であった。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	4.6	3.9	1.3	0.7	0.5	1.6	1.0

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	43.0	45.9	41.4	42.1	43.6	41.5
先行き判断	48.8	52.0	46.7	47.4	45.8	47.6

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・単価が低迷している(百貨店、スーパー、都市型ホテル等) 購買態度が慎重である(百貨店、スーパー、衣料品専門店)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、単価が下落している(一般小売店[精肉]、スーパー、ゴルフ場)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	10.9	7.3 ( 0.6 )
製造業	11.6	16.9 ( 1.9 )
非製造業	10.2	1.2 ( 0.7 )

(備考) ( ) は前回(9月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	3.9	3.7	6.8	1.5	6.7	11.5	15.5

<コメント>

- ・12月は分譲の増加から前年を上回ったが、均してみると緩やかに減少している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている。」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	13.2	26.1	2.2	13.1	19.3	15.6	8.4

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.44	0.47	0.50	0.53	0.53	0.53	0.54
完全失業率(原数値)	5.9	5.9	5.8	5.9	-	-	-

<コメント>

- ・有効求人倍率は緩やかに改善しているものの、完全失業率は前年同期(5.4%)を上回る高水準となり厳しい状況にある。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・新規求人数は増加しているが、求職者数が減少していない(職業安定所)、正社員の採用が手控えられる反面、派遣需要は伸びている(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、派遣スタッフの利用が伸びている(人材派遣会社)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	59.0	27.6	24.1	14.7	23.5	2.2	5.5
負債総額	11.0	75.4	134.3	38.7	181.7	26.8	249.5

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	47.5	48.9	46.0	46.1	45.6	42.8
先行き判断	51.7	53.3	49.2	47.6	45.5	47.1

## (7) 中国

中国地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが続いているものの、景気は改善のテンポが緩やかになっている。これは、設備投資が製造業を中心に増加しており、雇用情勢が厳しい状況ながらやや改善しているものの、個人消費がやや弱含んでおり、鉱工業生産の増加のテンポが緩やかになっているからである。

～大型百貨店の閉店や大手自動車メーカーの工場閉鎖発表など地域への影響が懸念される一方で、半導体事業への大型投資が相次いでいる～

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産 「増加のテンポが緩やか」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	0.4	6.3	3.5	1.8	0.5	1.2	0.7

(備考)(P)は速報値。

<コメント>

- 電気機械は、高水準な生産が続いているものの、IT関連の需要の一段落から弱含んでいる。自動車は、新型車投入効果で動きがみられるものの、減少傾向にある。化学は、輸出の減少から減少傾向にある。鉄鋼は、輸出が減少しているものの、国内需要が増加していることからおおむね横ばいである。一般機械は、低水準な生産ではあるが、緩やかな増加傾向にある。

(2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が拡大」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	12年3月(予測)
全産業	19	19	22	21
製造業	16	13	19	19
非製造業	21	22	23	23

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

- 受注状況に変化がない(一般機械器具製造業)、販売の低下が続いている(電気機械器具製造業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、販売量が伸び悩んでいる(窯業・土石製品製造業、非鉄金属製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

(1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
大型小売店	2.4	5.0	4.6	5.4	5.4	5.4	5.5
百貨店	0.7	3.9	4.5	4.9	6.4	4.9	3.8
スーパー	4.5	5.7	4.8	5.8	4.7	5.7	6.8
コンビニエンス・ストア	0.9	1.3	0.9	1.2	2.4	0.2	0.9

<コメント>

百貨店：商品の低価格化に加え、大型百貨店グループの販売不振や鳥取県西部地震の影響もみられる。12月は福山そごうの閉店セールの効果から減少幅が縮小している。このところ、主力商品の婦人服に持ち直しの動きがみられる。

スーパー：主力の飲食料品の不振に加え、ほとんどの商品で前年を下回っている。

乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	2.7	2.0	1.6	5.1	8.2	4.7	2.3

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連D I ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	41.4	44.6	42.1	43.2
先行き判断	-	-	45.7	46.4	46.4	50.0

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・来客数に変化がない(商店街、スーパー、衣料品専門店等) 客単価に変化がない(商店街、衣料品専門店)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している(一般小売店[菓子] コンビニ、一般レストラン等)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	8.9	4.7(0.9)
製造業	18.6	17.0(0.6)
非製造業	0.3	4.6(1.1)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	6.0	7.6	2.4	7.0	7.8	16.8	3.1

<コメント>

- ・持家、分譲が増加していることから、このところ前年を上回っているものの、基調としては緩やかに減少している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	0.4	22.8	5.5	12.3	11.9	6.1	23.5

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.68	0.71	0.73	0.76	0.75	0.77	0.76
完全失業率(原数値)	3.8	4.3	3.9	3.7	-	-	-

<コメント>

- ・有効求人倍率は緩やかに上昇しており、完全失業率は前年同期(3.7%)と同水準となっている。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・採用に積極的でない(求人情報誌製作会社) 悪条件でも多くの人が希望を出している(新聞社[求人広告])などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、正社員の雇用には慎重である(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	49.2	34.8	25.8	13.0	26.6	8.3	41.7
負債総額	34.5	34.9	555.6	76.5	58.1	409.0	53.4

景気ウォッチャー調査 [ 合計D I ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	46.0	46.3	42.5	42.5
先行き判断	-	-	48.0	46.5	45.5	48.3

(8) 四 国

四国地域は、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きがわずかにみられるものの、景気は足踏み状態である。これは、鉱工業生産が足踏み状態であり、個人消費はやや弱含んでおり、雇用情勢も厳しい状況にあるからである。  
 ~大型小売店販売額が前年割れを拡大する中、1月には香川県の大型百貨店が民事再生法の適用申請に至り、取引先への波及や消費マインドの低下など、今後の地域経済への影響を注視する必要がある~

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産 「足踏み状態」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	1.4	2.6	2.2	1.7	2.5	1.3	1.2

(備考)(P)は速報値。

<コメント>

・電気機械は、半導体集積回路は高操業が続いているものの、一部磁気ディスク装置やVTRで海外生産シフトがあったことから全体として水準が下がっている。化学は輸出の鈍化が懸念されるものの増加が続いている。紙・パルプは、情報機器に関連したマニュアル類の印刷用紙等の需要好調により増加が続いている。一般機械は、機種によりばらつきはあるものの、総じて低調に推移している。繊維は、輸入品との価格競争が厳しいこともあって減少が続いている。

(2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	22	21	20	23
製造業	20	13	10	16
非製造業	23	25	25	27

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

・相変わらず安値受注が続いている(建設業)車の稼働率が非常に悪い(輸送業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられる一方で、毎日の受注状態をみると景気はむしろ悪くなっている(パルプ・紙・紙加工品製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

(1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
大型小売店	1.9	3.2	4.3	5.4	4.8	5.4	5.8
百貨店	0.3	0.6	3.7	8.4	9.2	8.6	7.8
スーパー	3.3	4.6	4.6	3.5	2.2	3.4	4.5
コンビニエンス・ストア	1.2	3.5	3.1	3.0	5.0	2.7	1.4

<コメント>

百貨店：海外ブランド品などの身の回り品は堅調であるものの、気温が高めに推移したことから冬物衣料は不振となり、歳暮商戦も全体的には低調な動きとなった。1月に入ってからは、初旬は初売りなどで盛況だったものの、中旬以降は動意がみられない。

スーパー：消費者の節約傾向が続く中、気温が高めに推移したことから冬物衣料が不振となり、前年のY2K問題による特需の反動もあって飲食料品も前年割れとなった。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	1.1	3.1	0.0	1.3	2.7	1.3	2.6

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連D I ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	37.3	43.2	40.5	36.7
先行き判断	-	-	42.2	45.1	45.2	45.5

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・客単価が厳しい(百貨店、スーパー、その他専門店[酒])、目的買い以外の買い物がない(百貨店、衣料品専門店、家電量販店等)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、低価格志向、買い控えが増えている(商店街、その他専門店[CD] 通信会社等)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業で前年度実績を上回り、全産業では前年度実績を下回っている」  
企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	9.1	5.5
製造業	3.0	4.6
非製造業	14.4	10.5

(3) 住宅建設 「減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	9.1	7.2	3.1	0.7	5.9	1.3	2.9

<コメント>

- ・10月に貸家の着工の集中等から増加となったものの、全体として減少基調は変わらない。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	7.7	14.4	12.3	16.5	17.9	13.8	7.8

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.63	0.66	0.67	0.67	0.66	0.67	0.68
完全失業率(原数値)	4.1	4.1	4.7	4.1	-	-	-

<コメント>

- ・有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇しているが、完全失業率は前年同期(3.6%)を上回る高水準となり厳しい状況にある。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・有効求職者数がほぼ横ばいで推移している(職業安定所) 技術派遣などの特殊なものは増えているが、一般的な事務の件数は減っている(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、年が明けてから様々な企業で一層のリストラが進行している(求人情報誌製作会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	2.6	19.5	14.8	11.8	19.5	38.9	22.2
負債総額	68.9	27.6	438.5	167.9	95.1	224.0	979.2

景気ウォッチャー調査 [ 合計D I ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	39.9	43.4	40.8	38.0
先行き判断	-	-	44.1	45.8	44.3	46.1

## (9)九州

九州地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は改善が続いている。これは、雇用情勢は厳しい状況にあり、個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が引き続き増加傾向にあり、設備投資も製造業を中心に増加しているからである。

～新規の大型商業施設が相次いでオープンし、予想を上回る順調な滑り出しとなっている一方で、百貨店や専門店の不採算店の閉鎖も相次いでおり、競争が激化する中、小売業界の二極化の動きは加速している～

### 1.生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産 「増加傾向」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12(P)	12年10月	11	12(P)
鉱工業生産指数	1.8	1.0	1.3	0.4	1.6	0.1	0.9

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- ・携帯電話やパソコンなどの好調なIT関連需要にけん引されて、電気機械ではICが数量、金額ともに大幅な前年増が続き、フル稼働が続いている。
- ・自動車は好調であった北米向け輸出にはかげりがみられるものの、新型車の生産が本格化し始めており増加傾向にある。
- ・鉄鋼はアジア向け輸出の減少により、減産の動きとなっている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	14	14	12	14
製造業	6	5	4	10
非製造業	19	19	17	16

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- ・受注は変わらないが、IC関連が少し減っている(精密機械器具製造業)、契約の状況が悪くなっている(リース)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、競争が激しく受注に結びつかない(建設業)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

### 2.需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1～3月	4～6	7～9	10～12月	12年10月	11	12
大型小売店	1.5	4.2	4.9	5.6	4.6	6.2	5.8
百貨店	0.3	3.6	4.1	3.1	3.9	4.3	1.8
スーパー	2.8	4.6	5.5	7.5	5.2	7.6	9.3
コンビニエンス・ストア	0.5	1.4	0.5	0.9	2.1	0.2	0.4

#### <コメント>

百貨店：11月下旬から始まった歳暮商戦では前年実績を確保するところが多かったものの、気温が高めに推移したことから冬物衣料は総じて低調となっている。それでも12月にはいくつかの店舗で閉店セールが行われたことから減少幅は縮小している。1月に入ってから、初旬は初売りなどで盛況だったものの、中旬以降は大雪の影響もあって客足は減少している。

スーパー：気温が高めに推移したことや大型競合店の相次ぐオープンに加え、12月には前年のY2K問題による特需の反動もあって減少幅が拡大した。1月に入ってから、生鮮品や衣料品の価格低下もあって売上の増加は見込めない。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	4.7	3.8	0.9	0.5	1.3	0.4	2.3

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	48.5	43.2	43.9	40.3	44.3	40.4
先行き判断	45.8	50.4	45.4	45.8	42.9	42.6

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・来客数、売上が変わらない(スーパー、一般小売店[精肉])、人通りが少なく活気がない(商店街)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している(百貨店、スーパー)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [設備投資] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	1.4	10.5 ( 2.2)
製造業	13.4	16.7 ( 4.0)
非製造業	3.0	7.7 ( 1.4)

(備考) ( )は前回(9月)調査比修正率。

<コメント>

- ・半導体関連で新たに大手メーカーが設備投資額を積み増すなど、製造業を中心にさらに増勢が強まっている。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	8.1	4.5	4.7	8.0	11.7	2.6	10.0

<コメント>

- ・分譲の増加が続いていることに加えて、貸家も増加したことから、このところ前年を上回っている。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	6.5	9.5	17.9	7.3	6.8	3.8	22.1

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.45	0.47	0.49	0.52	0.51	0.52	0.52
完全失業率(原数値)	5.7	5.4	5.3	5.4	-	-	-

<コメント>

- ・有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇しているが、完全失業率は前年同期(4.9%)を上回る高水準となり厳しい状況にある。

景気ウォッチャー調査 [雇用関連]

<現状判断理由>

- ・正社員を募集するところが少ない(学校[専門学校])、就職がきまっていない大学生の数は減少していない(求人情報誌製作会社)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、失業者が増えているほか転職者も目立ち、求人の傾向も欠員補充が中心である(求人情報誌製作会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数は減少」 (前年同期(月)比増減率 単位:%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	43.9	31.3	13.7	8.7	14.6	16.0	5.1
負債総額	92.5	267.8	109.0	46.2	15.8	32.3	78.5

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	49.2	43.1	46.4	43.7	45.2	40.9
先行き判断	49.5	49.7	47.2	47.3	44.9	44.9

(10) 沖 縄

沖縄地域では、総じてみれば景気は回復している。これは、個人消費はおおむね横ばいであるものの、主力の観光が高水準で推移し、設備投資は増加し、住宅建設も増加傾向にあるからである。  
 ~スーパーでは競争が激化し二極化が進んでいる一方で、天久新都心の開発など明るい動きもみられる~

1. 観光及び企業動向

(1) 観光 「高水準で推移」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12(P)	12年10月	11	12(P)
入域観光客数	6.1	1.8	8.0	1.8	0.7	0.8	4.1

(備考)(P)は速報値(以下同様)

<コメント>

- 入域観光客数は、修学旅行や団体旅行が好調であり、地域別では東京や名古屋に加え北海道・東北からの入り込みが増加し、4か月連続で前年を上回り12月単月で過去最高となった。主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルとも前年を上回っている。一方で直近の動きを見ると、Y2Kの反動による増加が期待ほど盛り上がっておらず、先行きは不透明である。

(2) 企業動向 「業況判断は「良い」超で推移」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年6月	9月	12月	13年3月(予測)
全産業	7	1	1	1
製造業	0	5	4	0
非製造業	9	2	0	1

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

- 大型店がオープンしている(輸送業)などの理由から「やや良くなった」とする回答が多くみられた一方で、客が予算を確保できずに苦しんでいる(通信業)などの理由から「やや悪くなった」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

(1) 個人消費 「おおむね横ばい」

百貨店販売額、スーパーの売上高、家電卸出荷額 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12(P)	12年10月	11	12(P)
百貨店	7.4	7.3	7.4	0.7	0.5	2.8	3.0
スーパー	-	-	-	-	5.4	2.9	8.1
家電卸出荷額	13.0	7.0	1.3	10.9	1.8	25.6	7.1

(備考)百貨店販売額、家電出荷額は、沖縄銀行調べ。スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。百貨店販売額、スーパー売上高は店舗調整済。

<コメント>

- 百貨店：99年8月に閉鎖した百貨店の取り込み需要が一巡し10月に17か月ぶりに前年割れとなり、暖冬の影響(12月平均気温対前年比+1.5)も受けるなど低迷している。
- スーパー：新規大型店の出店により競争が激化し、単価低下により既存店では減少が続いているが、客数は堅調であり全店ベースでは引き続き前年を上回っている。
- 家電：テレビやオーディオなどデジタル関連機器が好調であるものの、冷蔵庫など白物家電が前年を下回っている。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
乗用車新規登録・届出台数	20.7	8.9	1.3	6.9	2.0	11.9	6.4

<コメント>

- 軽乗用車が引き続き大幅に増加しているほか、小型車も堅調に推移し全体では増加傾向にある。

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	43.8	50.0	41.7	35.0
先行き判断	-	-	56.3	43.3	50.0	48.3

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・客単価が低迷している(百貨店、観光ホテル等)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来場者数が激減している(観光名所)などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (12月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	4.6	5.1 ( 0.6)
製造業	8.8	20.3 ( 8.2)
非製造業	3.9	2.4 ( 0.9)

(備考) 石油、電力を除く。( )は前回(9月)調査比修正率。

<コメント>

- ・食料品の工場移転、大型小売の新規出店や増床等を中心に、前年度を上回る計画となっている。

(3) 住宅建設 「増加傾向」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
新設住宅着工戸数	14.6	1.9	23.1	29.0	39.1	33.6	13.2

<コメント>

- ・貸家は安定して推移し、持家も今後期待できる。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
公共工事請負金額	8.3	0.8	18.5	13.9	32.8	10.1	4.6

<コメント>

- ・市町村からの発注は増加したものの、九州・沖縄サミット関連工事の反動により前年を下回っている。

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年10月	11	12
有効求人倍率(季節調整値)	0.27	0.29	0.28	0.29	0.30	0.28	0.28
完全失業率(原数値)	6.9	7.9	8.2	8.5	8.8	7.9	8.7

(備考) 完全失業率は沖縄県調べ。四半期の数字は毎月の公表資料をもとに求めたもの。

<コメント>

- ・完全失業率は10~12月は前年同期(8.6%)を下回っている。有効求人倍率は12月は前月と変わらず、新規求人倍率は前月を下回っている。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・求人が先月より悪い(学校[専修学校])などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産 「負債総額は減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年1~3月	4~6	7~9	10~12	12年11月	12	13年1月
倒産件数	115.4	157.1	95.0	0.0	50.5	30.0	0.0
負債総額	350.4	68.4	71.2	57.7	67.4	83.3	221.0

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年8月	9	10	11	12	13年1月
現状判断	-	-	45.8	50.0	44.0	38.1
先行き判断	-	-	57.3	47.6	53.6	47.6

地域経済動向における各地域の景況の推移

	11年 10月	12月	12年 2月	4月	8月	11月	13年 2月
北海道	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態	足踏み状態
東北	改善が続いている						
関東	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている
(北関東)	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている
(南関東)	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている
東海	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている
北陸	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
近畿	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている
中国	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている
四国	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態
九州	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている
沖縄	回復傾向にある	回復傾向にある	回復傾向にある	回復している	回復している	回復している	回復している

(備考)      は上方修正。

     は下方修正。